

ホウレンソウ「フィーリング125」 産地優良事例…福岡県みい農協

J A みい

調査役 山手秀吉

1 産地の概要

J A みいは、平成3年4月に小郡市、北野町、大刀洗町の3農協が合併して発足しました。当地域は福岡県のほぼ中央部、筑後平野に位置し、南部が筑後川に面し、北部に若干の丘陵地帯がある程度の肥沃な平坦水田地帯です。

年間平均気温は約16℃、年間降雨量は約2,000ミリで、内陸的な気象条件にあり、農業にとって重要な条件である土壌（地力）・水・気候などに恵まれていることから、県下でも有数の農業地帯です。

露地栽培ではリーフレタス・玉レタス・ほうれん草・春ダイコンなどの作付けが多く、施設栽培も盛んで、パセリ・三つ葉・イチゴ・ニラ・青葱・サラダ菜などの生産を行っています。品目部会は50以上あり、平成11年度には約50億円の販売が見込まれています。

2 ほうれん草栽培の取り組み

当地域におけるほうれん草栽培の歴史は、昭和30年代に行っていたほうれん草の採種栽培で、間引き菜を青果用として出荷したことから始まりま

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
1型		●			■	●	水	稲	■	●		■
		大根								ほうれん草		
2型	●			■		●	露地葱		■	●		■
	大根									ほうれん草		
3型			■		●		水	稲		■	●	■
			ほうれん草							ほうれん草		

図1 ほうれん草作型



写真1 「フィーリング125」収穫風景

表1 ほうれん草出荷実績

年度	項目	10	11	12	1	2	3月
10年	数量(t)	11	62	92	103	91	12
	kg(円)	734	607	375	358	308	287
11年	数量(t)	5	79	82	125	90	56
	kg(円)	528	232	322	204	308	272

す。その後青果栽培が中心となり、現在では水田裏作の基幹作物として年々作付けが拡大しています（図1）。

昭和50年8月にはJ Aの生産組織として「ほうれん草部会」を結成し、今年で24年の歴史を持っています。現在部会員55名で約30ha、出荷量450tを見込んでおり、神戸、広島、福岡地区へ出荷を行っています（表1）。

3 栽培の概要

水田の裏作が中心ですので、播種期は9月中旬～11月下旬頃までが多く、10月中旬～3月下旬頃までが出荷の時期となります。

生育期間中は被覆資材などはほとんど用いない露地栽培ですが、低温期には収穫の10日頃前からトンネル被覆を行い、株を立たせて収穫（出荷）を行う場合もあります。



写真2 JAみい 山手考査役

表2 ほうれん草出荷規格表

等級	長さ(草丈)cm	1束重量g	1箱束数束	1箱重量kg
3 L	36~46	280	30	8
2 L	30~36	200	40	8
L	21~30	200	30	6
M	15~21	170	50	8

出荷はM～3Lまでの等級があり、結束での出荷を行っています(表2)。

4 品種導入にあたっての条件

栽培品種については、以下のような条件を重視して選定を行っています。

①べと病(レース1～4)の抵抗性があること。

ほうれん草の栽培において特に問題になるのがべと病の発生であり、レース4が発生した当初は当地でも大きな被害が出ました。特に、近年は年々気候が温暖化し、べと病が発生しやすい条件になっているため、抵抗性品種を導入することが重要となっています。

②生育が比較的遅いこと。

市場流通の中ではL級(草丈21～30cm)の評価が高いため、細かく段播きを行って、L級で収穫することが望ましいですが、実際には播種作業の労力面から、1回の播種面積が大きくなるのが実情です。したがって、生育が比較的遅くじっくりと生育する品種の方がL級の期間が長く、生産者に好まれます。

③湿害に強いこと。

水田の裏作ですので、降雨による湿害を受けやすい条件にあり、近年にも秋雨や時ならぬ集中豪雨のため、根腐れによる黄化症状を起し問題となった経緯があります。湿害の発生については品種間の格差があり、湿害に強い品種の選定が生産



写真3 結束での出荷形態

の安定に大きく影響します。

④葉色が濃いこと。

市場におけるほうれん草の評価としては、葉色が濃いものが好まれますので、濃緑色で葉面に照りのある品種が求められます。

⑤作柄が安定すること。

部会員の栽培技術には差がありますので、誰が作っても、安定して同じような生産物ができることが重要です。

以上のような条件が求められる中で、平成8年より試験を行っていた雪印種苗の「フィーリング125」は、上記の全ての条件を満たしておりましたので、平成10年度には部会で試験的に採用し、平成11年度からは全面的に採用することに致しました。

「フィーリング125」を採用後は、栽培がしやすく、収穫調整作業が容易であり、部会員からは好評を得ておりますし、また、品質面においても葉色が濃く、出荷後の棚持ちが良いため市場での評価は良好であります。

5 まとめ

ほうれん草は今後就農者が高齢化していく中でも栽培が可能であり、また、消費者が好む品目でもあります。当地域は立地条件としてもほうれん草の栽培に適しており、当JAの振興品目の1つであります。

今後も産地を継続していく上で、「フィーリング125」のような新品種に対して敏感に反応できるようなアンテナを持ち、積極的に導入していきたいと考えています。今後もすばらしい品種との出会いに期待しております。